



じしゅう どうこうさん

時宗 東岡山 福田寺

【ホームページもご覧ください!】

<https://kyoto-fukudenji.com/>



~今月のおことば~

しょうがく われらぼんぶ
仏の正覚は我等凡夫の爲なりき - 二祖真教上人



モモ

“7 歩の歩み”

┌ 仏様が覺りを開かれたのは、私たちに
覺り・救済の道を示すためである

春の彼岸会中、たくさんの方にお参りいただき、誠にありがとうございます。
22 日の施餓鬼法要も 24 名の方が本堂に上がられ、ご回向なされました。
日常から離れ、静かに仏様と向き合う時間は非常に貴重なものではないでしょうか。

さて 4 月 8 日は、お釈迦様の誕生日として広く知られ、行事としては花まつり・降誕会・灌仏会などと呼ばれます。仏伝によると、お釈迦様は生まれてすぐに 7 歩、歩きだし「天上天下唯我独尊」(この世で最も尊い存在が仏陀である)と宣言されたとあります。ただしこのセリフの方は、後世になってお釈迦様の尊さを表現した仏弟子のセリフが、お釈迦様の言葉として伝わってしまったと見られています。

では 7 歩の歩みはどうでしょう。生まれたての赤ちゃんが歩くというのは常識的には考えられませんね。だからといって与太話として片付けてはそれまでです。これはあくまでたとえ話と考えてみてください。
まず、仏教の世界観の一つに六道があります。六道とは六界とも言い、6 つの世界のことで、地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人道、天道を指します。この六道に住む生命は衆生と呼ばれ、私たちは人道に属しているということになります。衆生は生死によってこの六道を輪廻するので、六道輪廻あるいは輪廻転生という言葉が使われます。六道はいずれも苦しみを生む世界ですので、お釈迦様が目指されたのは輪廻からの解脱でした。

「7 歩の歩み」に戻りますが、この 7 は 6 の一つ上の数ということで、六道から一步抜け出すことを表現しています。つまりお釈迦様が 7 歩歩み六道から解脱されたように、私たちが六道をぐるぐると廻らずに、1 歩抜け出しなさいと示されているのです。そしてこの六道もまた私たちの心の変化を表していると考え、お釈迦様の歩みも違った見方になってくるのではないのでしょうか。

仏様の教えは言葉だけでは伝わりづらく、また言葉だけで分かったつもりになってはいけないという観点から比喩表現が多く使われます。仏伝やお経を読むときには、その本質を読み取ろうとする姿勢が大事なのでしょう。 合掌

当山御本尊のお姿



ぎよかんよせぎ
〈 木造金泥塗 玉眼寄木造り 阿弥陀如来立像 〉

・高さ:97.6 cm (三尺阿弥陀) ・印相:来迎印 (下品上生印)

えしんそうず
恵心僧都の作と伝わるが、様式からみて鎌倉時代初中期、慶派の作とみられる。
すらりとした細身の像で、面貌には張りがあり、整った顔立ちをつくる。上半身は三尺阿弥陀には珍しく覆肩衣 (内側の衣) を着けず、衲衣 (袈裟) のみである。着衣・彫刻技法などから“生身仏”の阿弥陀如来像と推定される。生身仏とは現世に生じた仏身 (化身) であり、像は人間的・写実的な特徴をもち、まさに生きた仏といえる。